未来色 ミライイロ アドクール AQUA 取扱説明書

製品案内：上塗材

製品名	荷姿	塗布面積 (1工程あたり)	内容	系統
推奨 アドクールAqua 5分艶	14 kg / 缶 4 kg / 缶	90 ㎡ / 缶 25 ㎡ / 缶	変性アクリルシリコン樹脂	1液水系
アドクールAqua 3分艶	14 kg / 缶 4 kg / 缶	90 ㎡ / 缶 25 ㎡ / 缶	変性アクリルシリコン樹脂	1液水系

製品案内：下塗材

*認定施工店限定商品：認定施工技術者講習会(有料)を受講された施工店のみ取扱い可能な商品です。詳細はお問い合わせください。
*JIS仕様に関しては別途ご相談ください。

製品名			荷姿	塗布面積 (1工程あたり)	内容	系統
金属用	アドクールプライマー		16 kg / 缶	85～140 ㎡ / 缶	速乾変性エポキシ樹脂	1液 弱溶剤
金属用	弱溶剤プライマーエポ		16 kg / 缶	53～123 ㎡ / 缶	変性エポキシ樹脂	1液 弱溶剤
金属用	アクアサビノン		16 kg / 缶	105～140 ㎡ / 缶	反応硬化型 エポキシ変性アクリル樹脂	1液 水系
金属用	アドパワーエポ 主剤14.4kg 硬化剤1.6kg		16 kg / ｾｯﾄ	95～114 ㎡ / 缶	速乾弱溶剤形 変性エポキシ樹脂	2液 弱溶剤
金属用	AGUA-MG100		16 kg /缶 3.6 kg /缶 0.9 kg /缶	160～200 ㎡ / 缶 36～45 ㎡ / 缶 9～11.25 ㎡ / 缶	速乾錆転換型 エポキシ樹脂	1液 溶剤
非金属用	屋根壁	クールシーラー	14 kg / 缶	82～140 ㎡ / 缶	遮熱用エポキシ樹脂	1液 弱溶剤
非金属用	屋根壁	水性ホワイトシーラー	15 kg / 缶	80～150 ㎡ / 缶	カチオン系アクリル樹脂	1液 水系
非金属用	屋根壁	水性クリアシーラー	18 L / 缶	180～270 ㎡ / 缶	カチオン系アクリル樹脂	1液 水系
非金属用	屋根壁	アドベストシーラー	15 kg / 缶	18～75 ㎡ / 缶	エポキシ樹脂	1液 弱溶剤
非金属用	壁	ソフトウォール	16 kg / 缶	10～53 ㎡ / 缶 *塗装方法により異なります	可とう形改修塗材E	1液 水系
防水用	マルチプライマーEP		16 kg / ｾｯﾄ	100～123 ㎡ / 缶	2液反応硬化型エポキシ樹脂	2液溶剤
防水用	マルチプライマーEP 専用シンナー		16 L / 缶 4 L / 缶	-	エポキシ系シンナー	溶剤
石綿スレート用	アドソリッド *認定施工店限定 下地調整剤		18 kg / 缶	約100 ㎡ / 缶	圧縮固化・アスベスト処理剤	1液水系

製品案内：中塗材

製品名		荷姿	塗布面積 (1工程あたり)	内容	系統
屋根防水用	バリバリストップ	16 kg / 缶	35～45 ㎡ / 缶	ハイブリッドアクリルゴム 塗膜防水材	1液水系

標準施工仕様

金属面

＜適用下地／鋼板屋根・トタン・アルミ・ステンレス面等＞

工程	製品名	標準塗布量 (kg / m2 / 回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・塗装面の付着物(ミルスケール、埃、苔、藻、ごみ等)は高圧洗浄で入念に除去し、十分に乾燥させてください。 ・下地処理は2種ケレン以上を行い、油類は溶剤拭きで除去し、サビ、浮き、剥がれ、粉化物等をディスクサンダー、ワイヤーホイール等の動力工具及びサンドペーパー、ワイヤーブラシ等の手動工具を併用して周辺部分を含めて入念に除去してください。						
下塗り	アドクールプライマー	0.11～0.18	1～	1時間以上 7日以内	塗料用シンナー	0～10%	刷毛 ウールローラー エアレス
	又は						
	弱溶剤プライマー エポ	0.13～0.30	1～2	16時間以上 7日以内	塗料用シンナー	0～12%	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	アドクールAqua	0.15	2	3時間以上 7日以内	清水	0～5%	刷毛 ウールローラー エアレス

◇オール水系用途の場合の下塗り材 ：アクアサビノン (1 液) 水系 0.11~0.15kg/ ㎡ / 回、 塗装間隔 16 時間以上 7 日以内、 清水 0 ～ 5%希釈可
◇強錆用 JIS 仕様の場合の下塗材 ：アドパワーエポ (2 液) 弱溶剤 0.14 ～ 0.17kg/ ㎡ / 回、 塗装間隔 4 時間以上 7 日以内、 塗料用シンナー 0 ～ 10%希釈可
◇赤錆面に塗装を行う場合の下塗材：MG-100(1 液) 溶剤 0.08 ～ 0.1kg/ ㎡ / 回、 塗装間隔 1 時間以上 7 日以内、 無希釈
＊ 事前に 3 種ケレン以上で浮き錆、 浮き塗膜を除去してください。

非金属面

＜適用下地／コンクリート・モルタル・スレート・ALC 等＞

工程	製品名	標準塗布量 (kg / m2 / 回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・粉化物、付着物等は清掃・高圧洗浄し、下地を十分に乾燥させてください。 ・旧塗膜の劣化部分は周辺部分を含め除去し、ごみ、粉塵、油分等の付着物をワイヤーブラシ、ウェス、皮すき、サンドペーパー等で入念に除去してください。 ・下地のひび割れ、傷、不陸、欠損部の修理など補修が必要な箇所は、塗装工事前に実施してください。						
下塗り	クールシーラー	0.1～0.17	1	16時間以上 7日以内	無希釈	-	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	アドクールAqua	0.15	2	3時間以上 7日以内	清水	0～5%	刷毛 ウールローラー エアレス

◇オール水系用途の場合の下塗り材 (2 種)：水性ホワイトシーラー (1 液) 水系 0.1~0.18kg/ ㎡ /m 回、 塗装間隔 3 時間以上 7 日以内、 清水 0 ～ 5%希釈
水性クリアシーラー (1 液) 水系 0.05~0.1kg/ ㎡ /m 回、 塗装間隔 5 時間以上 7 日以内、 清水 0 ～ 20%希釈
◇JIS 仕様の場合の下塗材：アドベストシーラー (1 液) 弱溶剤 0.2 ～ 0.8kg/ ㎡ / 回、 塗装間隔 4 時間以上 7 日以内、 無希釈

防水面

＜適用下地／ウレタン防水・アスファルト防水等＞

工程	製品名	標準塗布量 (kg / m2 / 回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・高圧洗浄でごみ、汚れ、油分等を入念に除去し、下地の種類によって適切な処理を実施してください。 ・旧塗膜の浮きや脆弱部分を撤去し、下地は十分に乾燥させてください。 ※シルバー塗膜上のレベモル施工の場合、シルバー面を完全にシールするように0.3kg/m2/2回塗りをしてください。						
下塗り	マルチプライマーEP (溶剤)	0.13～0.16	1	16時間以上 5日以内	専用シンナー	0～18%	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	アドクールAqua	0.15	2	3時間以上 7日以内	清水	0～5%	刷毛 ウールローラー エアレス

＊ 防水層への施工については、 素地によって多様性がある為、 全て要相談です。 必ずご連絡ください。

標準施工仕様

壁用・微弾性

＜適用下地／コンクリート・モルタル・スレート・ALC 等＞

工程	製品名	標準塗布量 (kg / m2 / 回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・ごみ、未硬化セメント粉末、砂じん、油分等の付着物をワイヤーブラシ、ウェス、皮すき、サンドペーパー等で除去し、乾燥した清潔な面にしてください。						
	ソフトウォール	0.3～0.6	1～2	5時間以上 7日以内	清水	0.9～1.2 L 5~7%	ウールローラー・中毛
		0.8～1.5	1	5時間以上 7日以内	清水	0.3～0.9 L 1~5%	多孔質ローラー
		0.7~1.2	1～2	5時間以上 7日以内	清水	0.6～0.9 L 3~5%	吹付(リシンガン) 口径 4～6㎜ 吹付圧力 0.5～0.6MPa エアレス圧送機
上塗り	アドクールAqua	0.15	2	3時間以上 7日以内	清水	0～5%	刷毛 ウールローラー エアレス

石綿スレート

＜適用下地／石綿スレート専用　※取扱い／認定店限定＞

工程	製品名	標準塗布量 (kg / m2 / 回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整	・有機ごみ(ごみ、埃、苔、カビ、鳥の糞等)はブラシやほうき等で取り除き、アドソリッドを散布してください。 ・注：高圧洗浄はアスベスト飛散の原因となりますので、行わないでください。						
	アドソリッド ※認定施工店限定 下地調整剤	0.1～0.17	1	6時間以上 7日以内	無希釈	-	エアレス 噴霧器等
下塗り	クールシーラー	0.1～0.17	1	16時間以上 7日以内	無希釈	-	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	アドクールAqua	0.15	2	3時間以上 7日以内	清水	0～5%	刷毛 ウールローラー エアレス

◇旧塗膜が残っている場合や、 滑膜面には不適です。

中 塗 材

工程	製品名		標準塗布量 (kg / m2 / 回)	塗回数	塗装間隔時間 (23℃)	希釈材	希釈率	塗装方法
下地調整 下塗り	・下地の種類によって各素材ごとの標準施工仕様に則り、適切な下地処理・下塗り材塗装を行ってください。							
中塗り	塗膜防水材	バリバリストップ	0.35～0.45	2～3	2時間以上	-	無希釈	刷毛 ウールローラー エアレス
上塗り	アドクールAqua		0.15	2	3時間以上 7日以内	清水	0～5%	刷毛 ウールローラー エアレス

安全衛生上の注意事項

1. 取扱い上の注意
(1) 取扱い時には皮膚に触れないようにし、適切な保護マスク、保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用下さい。
(2) 取扱い後は、手洗い、うがいを十分に行って下さい。
(3) 塗装、乾燥等を行う作業場所では、換気装置を設け作業中及び作業後も十分換気を行って下さい。
(4) 本来の用途以外に使用しないで下さい。

2.緊急時及び応急処置
(1) 目に入った場合は直ちに大量の清水で洗い流し、速やかに医師の診断を受けて下さい。
(2) 皮膚又は髪に付いた場合、直ちに汚染された衣服を脱ぎ皮膚を石鹸を使いシャワーで洗って下さい。必要があれば医師の診断を受けて下さい。
(3) 飲み込んだ場合、気分が悪い時は水で口をすすぎ、直ちに医師へ連絡して下さい。
(4) 吸入した場合、新鮮な空気を吸い呼吸しやすい姿勢で休息下さい。必要があれば医師の診断を受けて下さい。

3.保管上の注意
(1) 気温が0～40℃で直射日光の当らない屋内に保管して下さい。
(2) 中身が露出した場合は乾燥した砂等を散布した後回収するかウエス等で拭き取って下さい。
(3) 子供の手の届かないところに保管して下さい。

4.廃棄上の注意
(1) 使用済みの容器及び未使用の廃塗材を廃棄する場合は国や地方自治体の規則に従って産業廃棄物として、産業廃棄物処理業者に委託し処理して下さい。
(2) 本材料を廃棄する場合は地面や排水溝等に流さないで下さい。
※詳細な内容が必要な場合は製品安全データシート(SDS)を参照下さい。

●施工仕様の各数値はすべて標準のものです。 施工方法、 施工条件により多少の幅が生じることがあります。

●溶剤系製品をお取扱いの際は、 特に火気に注意し、 消防法及び労働安全衛生法を厳守してください。

改修下地		下地調整剤												防水用	備考
		封じ込め	金属部					非金属部							
		アド ソリッド	アドクール プライマー	弱溶剤 プライマー エポ	アクア サビノン	アドパワーエポ	AGUA-MG100	クールシーラー	水性ホワイト シーラー	水性クリア シーラー	アドベスト シーラー	ソフトウォール		マルチ プライマーEP	
金属系	鉄骨	-	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-		-	
	鋼板	-	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-		-	
	トタン	-	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-		-	
	電気亜鉛メッキ鋼板	-	●	●	-	●	●	-	-	-	-	-		-	
	ステンレス鋼板	-	●	●	-	●	●	-	-	-	-	-		●	
	アルミニウム板	-	●	●	-	●	●	-	-	-	-	-		●	
	（赤錆面）	-	(注2)	(注2)	(注2)	(注2)	●	-	-	-	-	-		-	
非金属系	ケイ酸カルシウム板	●(注1)	-	-	-	-	-	-	●	●	●	壁用・微弾性 (適用下地) ・各種旧塗膜 ・コンクリート ・セメントモルタル		●	密度0.8以上
	プレキャストコンクリート部材	●(注1)	-	-	-	-	-	●	-	-	-			●	
	コンクリートブロック	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●			●	
	ALCパネル	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●			-	
	石膏・スレートボード	●(注1)	-	-	-	-	-	●	●	●	●			●	
	打ち放しコンクリート	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●			●	
	セメントモルタル	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●			●	
	窯業系サイディングボード	●(注1)	-	-	-	-	-	●	●	●	●			●	
	スレート、カラーベスト、コロニアル	●(注1)	-	-	-	-	-	●	●(注3)	●(注3)	●(注3)			●	
	石綿スレート	●	-	-	-	-	-	●(注5)	-	-	-			●(注6)	
防水	アスファルト防水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		●(注4)	
	塩ビ・シート防水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		●(注4)	
	ウレタン防水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		●(注4)	
	FRP防水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		●(注4)	

＊ JIS仕様　　＊ JIS仕様

注1）2004年までに製造された建材の一部には石綿が含有されている可能性があります。石綿の含有が不明な場合は専門業者による事前調査を推奨いたしますが含有の判断がつかない／または劣化し、多少の作業でも飛散の恐れがある場合は適用を推奨いたします。(既に含有が判明している場合は必ず本剤で飛散防止をしてください)
注2）必ず2種ケレン以上を実施し、清浄な素地を露出させてから塗装を実施してください。
注3）原則として下塗りには溶剤系塗料を推奨しております。水系塗料を適用される場合は事前に素地との密着を確認してから作業を実施してください。
注4）各種防水材はできるだけ旧塗膜を除去してください。(2種ケレン相当推奨)またFRPについては塗装前に目荒らしが必要です。
注5）石綿含有建材への施工については必ずアドソリッドを施工して飛散防止・封じ込めを実施してから塗装作業にあたってください。
注6）亜鉛メッキやアルミニウム、白錆面は塗料の密着を疎外する要因となります。事前に目荒らしを十分に実施してから施工にあたってください。

施工上の注意事項【改修下地】

1. 脆弱した塗膜の表面及び浮き、膨れ、剥がれ等をディスクサンダー、ワイヤーホール等の動力工具及びスクレイパー、ワイヤブラシ等の手動工具を併用して、サビ、油分、 付着物等を除去して下さい。
2. 下地のひび割れ部等は、シーリング及び下地調整材で補修を行って下さい。
3. 粉化物、付着物等は高圧洗浄機を使用し除去、清掃を行い、その後下地を十分に乾燥させて下さい。
4. 下地処理は旧塗膜・下地の調査を行い、劣化状況 (劣化レベル) に基づいた適切な処理を実施して下さい。
5. 塗布量が少ない場合、防錆性及び付着性が低下する為、必ず標準塗布量を塗布して下さい。
   ・フッ素樹脂塗膜、シリコン樹脂塗膜の場合は施工できません。
   ・どぶ漬け溶解亜鉛メッキ鋼材、塩化ビニル被膜鋼板は施工できません。
   ・新規下地の場合は別途ご相談下さい。

※改修工事の詳細については、国土交通省改修工事ガイドブックを参照下さい。

【その他】
・下地処理の洗浄等に使用される酸性の洗浄液は、その溶解作用により塗膜が変色する場合がありますので十分注意して洗浄を行って下さい。
・下地の強アルカリ性が予測される場合は、エフロレッセンスが発生し仕上塗膜に影響を及ぼす場合がありますので、溶剤系プライマーをご使用下さい。
・下地調整の方法により、実際の色と色見本とでは多少異なる場合がありますのでご注意ください。

各上塗り材は使用直前（工程ごと）に必ず3分以上、撹拌機（低速回転）で撹拌してから塗布してください。

上塗り材／主材

●標準塗装仕様に記載の数値は使用量の標準塗布量等目安となる数値です。下地の状態、建物形状、気象条件、施工条件など個々の条件によって異なります。
●主材には特殊セラミックスが配合されている為、必ず使用直前(各工程)に3分以上攪拌機(低速回転)で撹拌して下さい。尚、撹拌が十分でない場合、塗料の効果が低下する可能性があります。上塗りの最終養生は24時間以上です。
●下地調整の工程は塗装工事における責任範囲には含まれません。
●既存塗膜が2液溶剤系フッ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料の場合は施工できません。
●低温時5℃以下、多湿時85%以上での施工は避けて下さい。また、施工後、24時間以内に降雨、結露等があった場合、水の影響で色むら、泡等が発生する場合があります。
●降雨、降雪、強風の場合は施工を避けて下さい。又、作業後に降雨、降雪の恐れがある場合は雨(雪)養生をして下さい。更に、夜間の気温が氷点下になる恐れがある場合は午後からの作業を中止して下さい。
●高湿、夜露、朝露、結露、スコール等の懸念がある場合は日の高いうちに作業を終え、日没までに十分乾燥させて下さい。尚、乾燥が十分でない場合、垂れ、むら、剥離等を引き起こす原因となりますので注意して施工下さい。
●常に結露が発生する地域及び時期での施工は避けて下さい。
●標準塗装仕様に準じて所要量及び塗装間隔を厳守して下さい。剥離、割れ、色相変化などの原因となります。また、主材を一度に厚塗りすると塗膜の割れが発生することがありますのでご注意下さい。
●一度凍結すると使えなくなります。冬季の管理・輸送にはご注意下さい。
●材料は直射日光を避け、40℃以下の冷暗所で保管し、屋外又は換気の良いところでのみ使用して下さい。(施工時には材料の保管所を確保下さい。万一確保出来ない場合は、シート等を被せる等して保管条件をお守り下さい。)
※その他塗料の取扱いについての一般的な注意事項の詳細についてはSDS(安全データシート)を参照して下さい。

金属系／下塗り材

●標準塗装仕様に記載の数値は使用量の標準塗布量等目安となる数値です。下地の状態、建物形状、気象条件、施工条件など個々の条件によって異なります。
●各標準塗装仕様に準じて所要量及び間隔時間を厳守して下さい。剥離、割れ、色相変化などの原因となります。
●低温時5℃以下、多湿時85%以上での施工は避けて下さい。上塗りの艶引け等が発生する要因となります。
●塗装中及び塗装後6時間以内に降雨、積雪、結露、強風等が予想される場合は、施工を避けて下さい。
●材料は直射日光下を避け、40℃以下の冷暗所で保管し、屋外または換気の良いところでのみ使用して下さい。
●材料を取り扱う場合は、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法を厳守して下さい。
●容器は密閉しておいて下さい。又、開栓後はなるべく早く使い切って下さい。
●火花を発生させない工具を使用して下さい。静電気放電に対する予防処置を講じて下さい。
●容器からこぼれた時には、布で拭き取って水で張った容器に保管して下さい。
●内容物、容器は国や地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄して下さい。
●容器や塗装具を洗浄した排水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼす恐れがある為、排水処理場などの施設に持ち込むか産業廃棄物処理業者に処理を依頼して下さい。
※新規下地の場合はご相談下さい。
※施工の際の要点、注意事項の詳細についてはSDS(安全データシート)を参照下さい。

防水面／下塗り材

●標準塗装仕様に記載の数値は使用量の標準塗布量等目安となる数値です。下地の状態、建物形状、気象条件、施工条件など個々の条件によって異なります。
●下地の乾燥は十分行って下さい。(含水率10%以下、pH10以下)、既存塗膜に溶剤分が残存すると、膨れ現象が生じる恐れがありますので十分に乾燥後、上塗りして下さい。
●水切部で上下の瓦が塗料で接着している箇所は皮すき、ケレン棒で縁切りを行って下さい。
●瓦の破損、役物の釘浮き、シーリング切れなど最終チェックを行って下さい。
●下地調整として付着物(苔、藻、劣化層)は高圧水洗(10MPa程度)で除去して下さい。
●下地調整が不十分だと塗膜剥離の原因となったり、光沢が出ない等の仕上り不良になる場合があります。
●水洗い後は1日以上乾燥させて下さい。また素地表面が雨、露などで濡れている場合は十分に乾燥するまで塗装しないで下さい。(光沢低下、膨れ、割れ、剥がれの原因となります。)
●塗装器具は、速やかにラッカーシンナー等で洗浄してください。
●シーラー塗装により、既存塗膜にふくれ・ちぢみ現象が発生する事があります。事前に試し塗りで確認して下さい。
●膨れ・ちぢみ現象が発生した場合、既存塗膜を完全に除去して下さい。
●容器は密閉しておいて下さい。又、開栓後はなるべく早く使い切って下さい。
●塗装中及び塗装後6時間以内に、降雨・積雪・結露等が予想される場合は施工を見合わせて下さい。
●火気厳禁。高温高湿を避け、冷暗所に保管して下さい。
●火花を発生させない工具を使用して下さい。静電気放電に対する予防処置を講じて下さい。
●容器からこぼれた時には、布で拭き取って水で張った容器に保管して下さい。
●容器や塗装具を洗浄した排水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼす恐れがある為、排水処理場などの施設に持ち込むか産業廃棄物処理業者に処理を依頼して下さい。
※施工の際の要点、注意事項の詳細についてはSDS(安全データシート)を参照下さい。

非金属系／下塗り材

●標準塗装仕様に記載の数値は使用量の標準塗布量等目安となる数値です。下地の状態、建物形状、気象条件、施工条件など個々の条件によって異なります。
●コンクリート、モルタルなどのアルカリ質素材は水分8%以下、ph10以下になるまで十分に乾燥させて下さい。
●使用前に十分かき混ぜて下さい。屋外又は換気の良いところでのみ使用下さい。
●低温時(5℃以下)、多湿時(85%以上)での塗布は避けて下さい。
●塗装中及び塗装後6時間以内に、降雨、積雪、結露等が予想される場合は、施工を見合わせて下さい。
●一般の水系塗料や市販種ペン等と絶対に混ぜないで下さい。
●日光から遮断し容器は密封の上、換気の良いところで保管下さい。
※**水性ホワイトシーラー**はカチオン系塗料です。一般の水系塗料に使用した刷毛、ローラー等の用具を共有すると固まりますので避けて下さい。
※施工の際の要点、注意事項の詳細についてはSDS(安全データシート)を参照下さい。

●2025-12 本誌は2025年12月の情報により作成致しました。

NCK株式会社